



回転する壁をもつ鳥の住宅

鳥にとって地域とは何だろうか？

それは、おそらく生きるために「ツール」に他ならない。

それは、鳥が本能や直感というものを重要視しているからではないだろうか。

また、人の脳と鳥（特にニワトリ）の脳の構造が似ていることから、鳥の快適性を探る

逆説的に人の快適性にたどり着くのではないだろうかという仮説的な実験のもとにこの

プロジェクトはスタートすることになった。

場所は、福井県坂井市の平野部である。坂井市は、海、山、川、平野という自然環境が

非常に豊かな地域であり、多くの鳥たちが住んでいる。

そんな多くの鳥たちが住む場所で、鳥たちに受け入れられる住宅の可能性を探る。

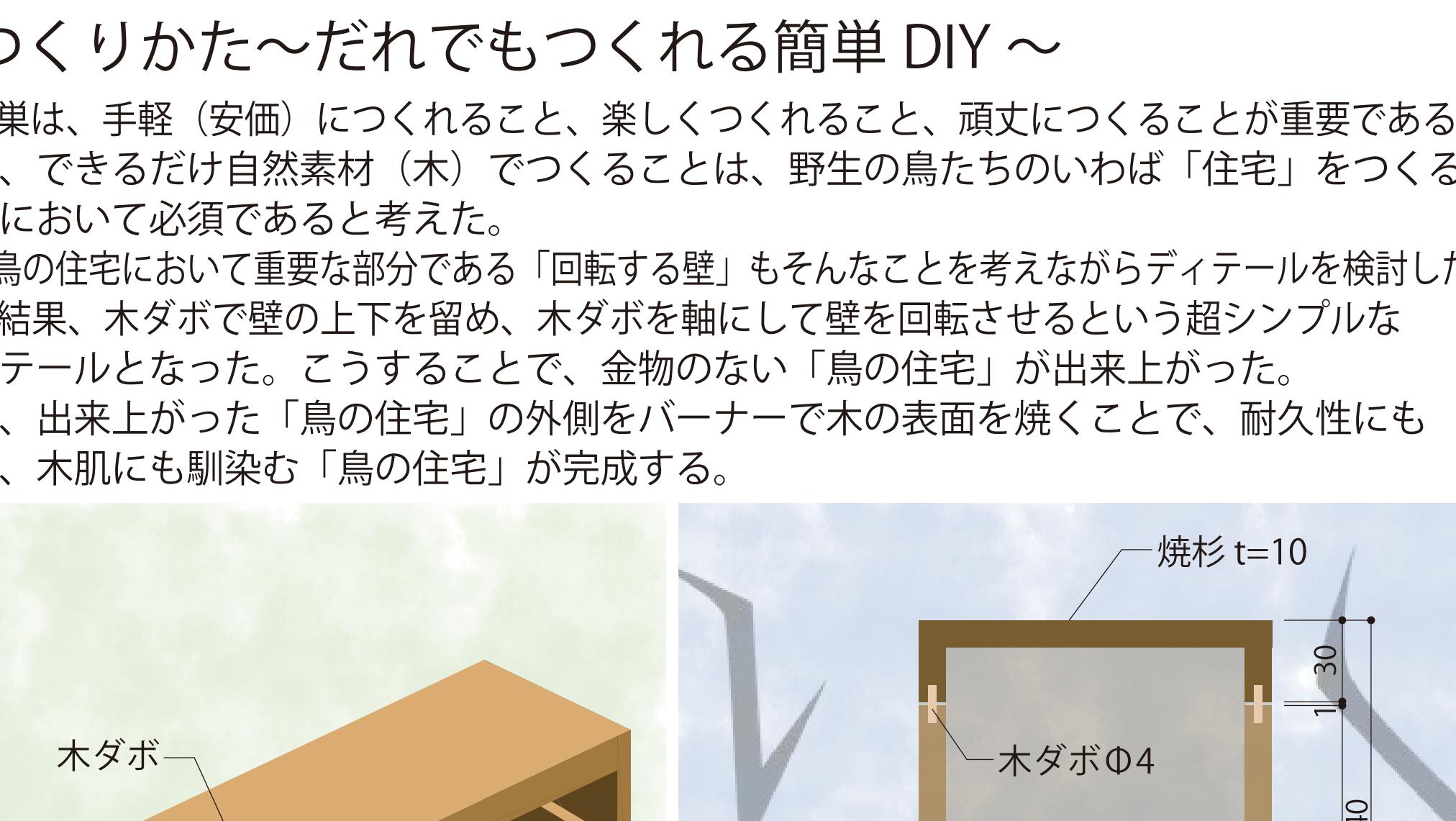
鳥たちにとっての究極の住宅とは何か？

まず、鳥たちに受け入れられるには、環境の変化に敏感にかつ俊敏に対応しなければならないだろうということである。そうでなければ、鳥たちはすぐにより快適な場所へと飛び立ってしまうだろう。

落ち着きや楽しさを兼ね備えた住宅。

さあ、鳥目線で住宅の快適性を探る旅へ出よう。

■Diagram



巣作りのためだけの従来の巣箱

使い方が「選択」できる巣箱

一年を通して使える巣箱

鳥たちにとっての住まいとしての巣箱

■つくりかた～だれでもつくれる簡単DIY～

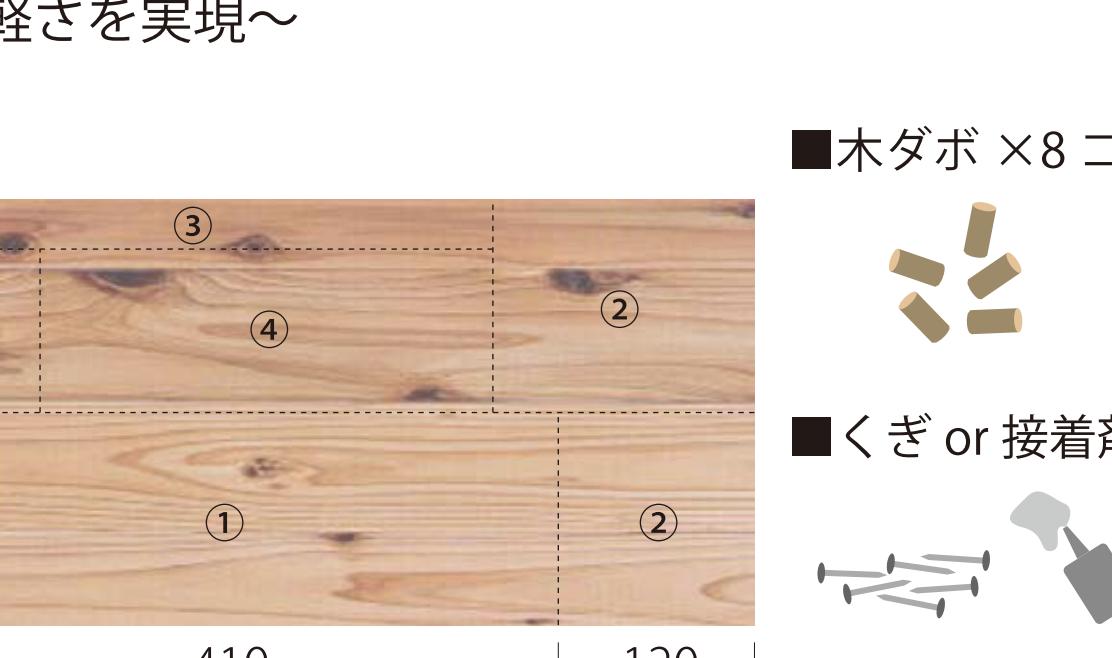
鳥の巣は、手軽（安価）につくれること、楽しくつくれること、頑丈につくることが重要である。また、できるだけ自然素材（木）でつくることは、野生の鳥たちのいわば「住宅」をつくるときにおいて必須であると考えた。

この鳥の住宅において重要な部分である「回転する壁」もそんなことを考えながらディテールを検討した。その結果、木ダボで壁の上下を留め、木ダボを軸にして壁を回転させるという超シンプルなディテールとなった。こうすることで、金物のない「鳥の住宅」が出来上がった。

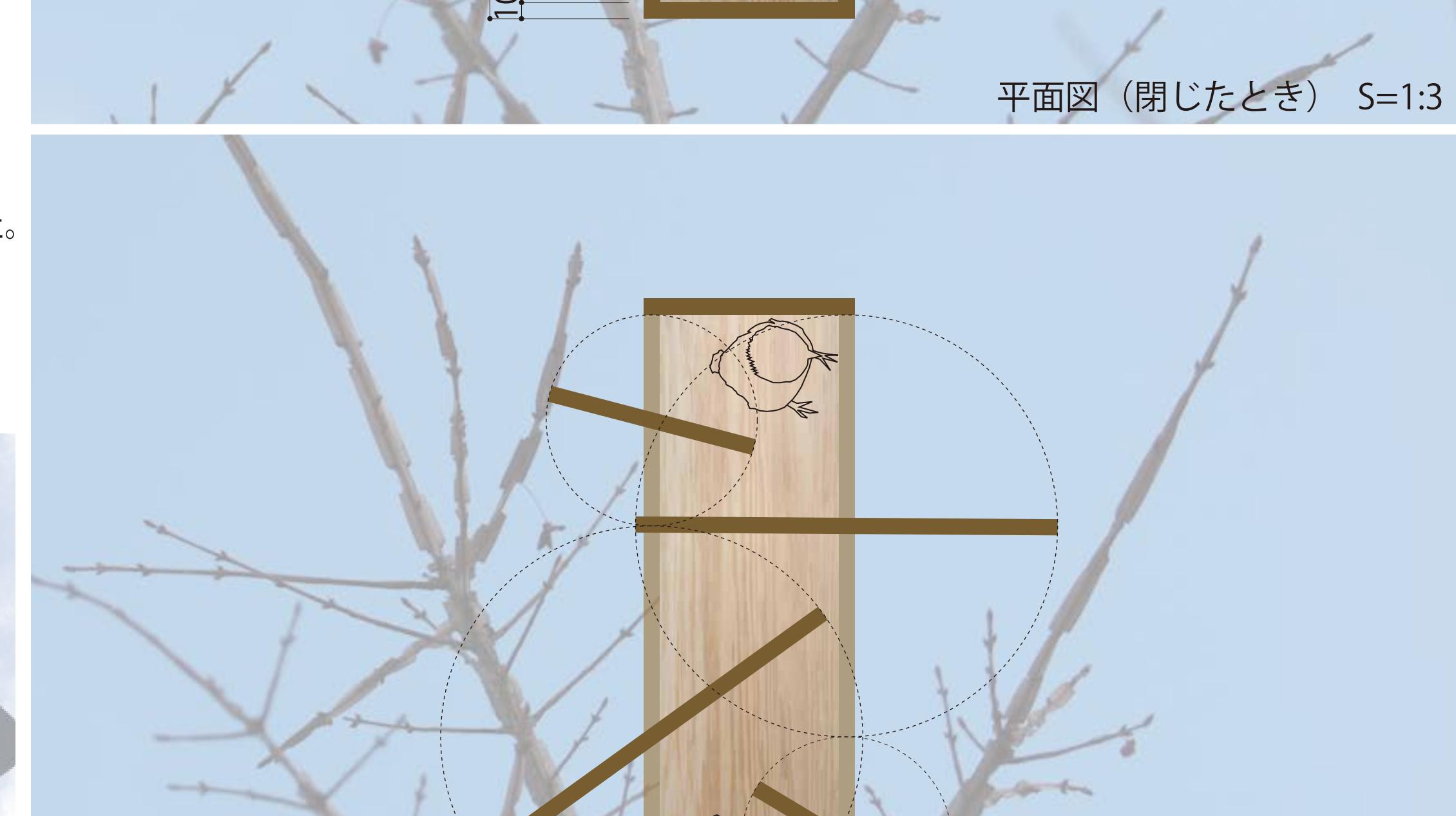
また、出来上がった「鳥の住宅」の外側をバーナーで木の表面を焼くことで、耐久性にも優れ、木肌にも馴染む「鳥の住宅」が完成する。



回転する壁部分ディテール



断面図 S=1:2



平面図（閉じたとき） S=1:3



平面図（開いたとき） S=1:3

■地産地消のススメ

この住宅の材料は、比較的日本全国で手に入ることができ杉板を用いている。杉は、間伐材等により比較的安価入手することができ、加工も柔らかいのでしやすい。また杉は、日本各地に植林しており、各地の杉の地産地消を実現するために手軽であり、安価で消費者に届きやすいため、最も適した材料ではないかと考えている。

また、地域の木材連合と協働することでさらに地産地消のサークルを強くすることも可能なため、理想の地域密着型の地産地消を形成することができる。

右：杉の特徴

左：地産地消のサークル

■分類：ヒノキ科スギ亜科スギ属の常緑針葉樹

■特徴：葉は基部が枝に密着して、先は針状に尖り、枝全体としては一面に上向きの針を並べたようになる。樹皮は褐色で、成長した幹の樹皮は縦に裂け、帯状に剥げ易い。樹形はふつう細長く直立し、高さ50mに達するものもあるが、生育条件などによっては幹が太くなる。

▼坂井市に生息する鳥たち

